

# 和歌山だよいい

平成22年 6月号



青 梅

## CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P7
3. お知らせ…………… P8～P11
4. ふるさと歳時記…………… P12



ムラサキシキブ

## 「縦割り思考の弊害」

縦割り行政の弊害ということがよく言われます。国でも地方公共団体でも、自分の属する組織のことばかり考えて、自分の仕事でないと思ったらもう知らん、あるいは自分の仕事がちゃんとできていればそれで十分だと考えたり、関係する部局と調整して全体として力を発揮していこうということには消極的、とまあこういったことが批判されるのです。

私は、和歌山県ではこういう弊害は極力なくそうと考えており、そのように日々職員を指導しています。例えば、県民の方が県の担当部局に聞いた時、「それは県の仕事ではありません。市の仕事です。」と言われたら県民の方は途方に暮れてしまいます。その場合でも「自分が市の関係の〇×に言っといたから、そこへ行ってください。」と言われたら、どれほど県民の方はうれしいでしょう。こういう態度を奨励しています。

さらに最近思うことは、行政が政策を考える時、思考が縦割りになってはいないかということです。ある政策をしようとする時必ず何か別の分野に影響が出ます。場合によっては副作用みたいなことも起こります。立派な行政はそれを予見して、変な副作用が出ないような政策を考え、また、その副作用を除去できるような政策も併せて実行するように総合的に考えることであります。それぞれの部下が、それができない時は、トップが全体を見て、他の分野への悪影響などもカウントに入れて政策決定をしなければいけないと思います。高速道路料金を下げると、フェリーが危なくなりはないか、地球温暖化防止に逆行しないか、財政は大丈夫か……。最近の国政を見ていると、政党人も官僚もこういう総合性が段々とうすれ、皆、縦割り思考になっているような気がします。行政の任にない人々は、わりと一つの方向からの要求・要望をされるというのはやむを得ませんが、行政がこれでは困ります。和歌山県だけは、そうならないように、県政全般を必死で見たいと思います。



近畿市長会で挨拶する仁坂知事。

## 今月の和歌山県政トピックス

\* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

### ●日本トルコ友好120周年事業開催

・トルコ軍艦エルトゥールル号が串本町紀伊大島沖で遭難して今年で120年を迎え、6月3日～6日の間、串本町において、日本トルコ友好120周年事業として追悼式典や様々な交流事業が行われました。

・海上自衛隊の護衛艦「せとゆき」で行われた洋上追悼式典では、寛仁親王殿下と彬子女王殿下のご臨席を賜り、トルコ大使や海上自衛隊呉地方総監、オスマン・パシヤ司令官の子孫をはじめとする関係者約90名が出席し、遭難海域で黙祷し、菊の花束を捧げました。

・トルコ軍艦殉難将士慰霊碑前において行われた陸上追悼式典では、仁坂知事が、事故で亡くなられた方々の冥福を祈るとともに、私たちの祖先が残した歴史とトルコ国民がいつまでも感謝の気持ちを忘れないことに対して尊敬の意を表し、日本トルコ両国の友好親善を深めていくことを誓いました。



護衛艦「せとゆき」から献花される寛仁親王殿下



陸上追悼式典で献花する仁坂知事

#### エルトゥールル号遭難事件と日本・トルコ両国の友好

1890年9月16日夜、オスマン帝国最初の親善訪日使節団を乗せた軍艦「エルトゥールル号」がその使命を終えた帰途、串本町檜野埼沖で台風による強風と高波により座礁し、沈没しました。この事故により587名の命が奪われる大惨事となりましたが、事故の知らせを聞いた大島島民の懸命の救助活動により69名を救出することができました。この遭難に際し、大島島民が行った献身的な救助活動が、それからトルコの人々の間で語り継がれており、この「エルトゥールル号」の日本訪問と遭難は、その後の日本とトルコの友好関係の原点とされています。

1985年3月17日、イラン・イラク戦争中テヘランで孤立した邦人を救出するためトルコ政府がトルコ航空の救援機を派遣したことは、エルトゥールル号遭難事件の恩義に応えたものとして、友好関係を象徴する出来事として紹介されています。

2010年は、エルトゥールル号の日本訪問と遭難から120年を迎える節目の年であることから、「2010年トルコにおける日本年」とされ、トルコ国内で様々な日本文化紹介イベントが催されています。1月のオープニング式典ではエルトゥールル号遭難事件の際、第一発見者で救助にあたった住民の子孫にあたる方がスピーチを行いました。

9月には串本町の姉妹都市であるメルシン市でエルトゥールル号120年慰霊式典及び交流イベントが開催されることから、和歌山県から仁坂知事をはじめとする代表団を派遣するとともに、大勢の県民の方にも、これらのイベントに参加いただく予定です。



●「ジビエ工房 紀州(日高川町有害鳥獣食肉処理加工施設)」がオープンしました！

- ・和歌山県では、野生鳥獣による農作物被害が年々増加し深刻化しています。
- ・農作物被害の軽減を目的として、イノシシやニホンジカの捕獲拡大に取り組んでいますが、県内に食肉処理する施設が少なく、また、その流通体制が整っていません。
- ・県は、捕獲したイノシシやシカを地域の貴重な資源と捉まえ、レストラン等での利活用や観光振興に活かすため、食材として利用するための「衛生管理ガイドライン」の制定や食肉処理施設の整備、食肉流通システムの整備を推進しています。
- ・5月29日、県内で初めての公設食肉施設「ジビエ工房 紀州」が日高川町に完成しました。開所式には、仁坂知事、日高川町長や関係者が出席し、ジビエ（狩猟で捕獲した鳥獣の食肉）料理の試食会も行われ、大好評でした。
- ・この処理施設で生産される食肉は、日高川町内の道の駅（サンピン中津）で販売、宿泊施設において、鍋料理(主にイノシシ肉)等宴会メニューとして提供する予定です。

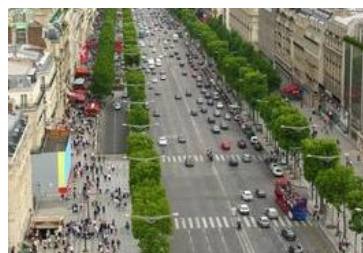


ジビエについての取り組みは下記アドレスをご覧ください。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070400/zibiedetiikiokoshi.html>

●「けやき大通り」の再生に向けて検討委員会を設置します。

- ・「けやき大通り」は、幅員50m、中央分離帯を挟んで片側3車線と側道1車線で構成された、JR和歌山駅前のメインストリートです。
- ・自動車交通量は一日約25,800台（H17センサス）と車線数から見れば十分余裕がある一方で、多くの人や自転車が利用する歩道は常に安全通行に注意が必要です。
- ・側道（6m）は、路線バスの優先道路となっていますが、側道から本線への合流時に交通事故が多発しています。
- ・また、近年、道路空間を利用した各種イベントが開催されるなど、和歌山市の玄関口としてふさわしい、にぎわいのある「けやき大通り」の再生に向けた要求が高まっています。
- ・そうしたことから、県が中心となって、まちづくりに関する有識者・地元自治会・商店街・沿道でイベントを実施している団体等で構成する「けやき大通り再生検討委員会」を設置します。
- ・道路空間のあり方を見直し、「シンボルロードの新たな魅力の創出」や「歩道を広げ、自転車にも歩行者にも快適な空間の確保」、「オープンカフェ・多目的広場など訪れる人の憩いの場の創出」などについて、年内を目処に検討していきます。



にぎわいのある歩道空間のイメージ

### ●「企業のふるさと」第2弾！！

・5月24日に、「企業のふるさと」（企業と農村が連携して継続的に取り組む、農村地域の保全・活性化対策）の第2弾として、「関西電力労働組合和歌山地区本部」と「NPO法人熊野本宮」が、和歌山県田辺市本宮町<sup>ほんみやう</sup>発心門地区において継続的な協働・交流活動を実施することになり、田辺市、和歌山県の両者と覚書が調印されました。

・6月5日には、田辺市本宮町発心門内で、関電労組組合員、NPO法人熊野本宮と地元住民が参加のもと、田植え、野菜苗定植、熊野古道ウォークなどの交流活動を行いました。

・なお、第1弾はかつらぎ町の、伊藤忠商事株式会社と天野の里づくりの会の協働・交流活動です。

「企業のふるさと」は、下記アドレスをご覧ください。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hurusato/index.html>



### ●国指定名勝に「和歌の浦」（和歌山市）と「円月島」（白浜町）が答申されました！

・5月21日、国の文化審議会において、和歌山市の「和歌の浦」と白浜町の「円月島（高嶋）」（右写真）を記念物（名勝）に指定するよう、文部科学大臣に答申されました。指定（8月予定）されれば、和歌山県内の国指定名勝は、11件（名勝・天然記念物2件を含む）となります。今後は、和歌浦の追加指定、天満宮・東照宮、円月島に引き続いて、千畳敷、三段壁が指定されるよう働きかけていきます。



#### 【県内の名勝（現在9件）】

- ・和歌山城西の丸庭園（紅葉谷庭園）昭和60年1月27日指定
- ・養翠園 平成元年12月8日名勝指定
- ・根来寺庭園 昭和33年5月15日名勝指定
- ・粉河寺庭園 昭和45年4月23日名勝指定
- ・天徳院庭園（高野山） 昭和45年6月26日名勝指定
- ・温山荘園 平成22年2月22日名勝指定
- ・那智の大滝 昭和47年7月11日名勝指定
- ・橋杭岩（名勝・天然記念物） 大正13年12月9日名勝指定
- ・瀨八丁（特別名勝・天然記念物）昭和3年3月24日名勝指定

●「第9回わかやま環境大賞」決定！

- ・6月7日、和歌山県民文化会館において、「第9回わかやま環境大賞」の表彰式を開催しました。
- ・「わかやま環境大賞」は、環境保全に関する実践活動が他の模範となる団体又は個人を表彰する制度で、平成14年に創設されました。
- ・様々な活動事例を広く県民に紹介することにより、環境保全に関する自主的な取り組みを促進することを目的としています。
- ・9回目となる今回は「わかやま環境大賞（1団体）」の他に「わかやま環境賞（5団体）」、「特別賞（1個人2団体）」を表彰しました。こうした心温まる活動により、和歌山県の環境が支えられています。

○わかやま環境大賞○

株式会社串本海中公園センター（串本町）

長年にわたるマリンスクールや自然体験プログラムなどにおいて和歌山県の自然のすばらしさを全国に情報発信するとともに、オニヒトデの駆除で本県の環境保全に寄与されました。

○わかやま環境賞○

特定非営利活動法人紀州えこなびと（和歌山市）

丸木コンロと小水力発電施設の研究開発により、本県における自然エネルギーの普及啓発と環境保全に寄与されました。

江川中ホテルを守る会（紀の川市）

重谷川のホテルの保護と育成に取り組み、環境美化と自然のすばらしさを伝える活動において、本県の環境保全に寄与されました。

那智川を守る会（那智勝浦町）

那智川の美化清掃活動を行い、小学生が地域の自然に親しむ環境づくりを積極的に推進され、本県の環境保全に寄与されました。

和歌山市立西脇中学校（和歌山市）

磯の浦海岸の美化清掃活動を通して、環境学習の実践と意識の高揚に努めるなど、本県の環境保全に寄与されました。

田辺市立田辺第三小学校（田辺市）

リサイクル運動とシステムの構築を通じて、地域とともに環境保全に対する実践と意識の高揚に努めるなど、本県の環境保全に寄与されました。

○特別賞○

大平 喜代（和歌山市）

家庭の生ゴミをたい肥化する活動を地道に推進され、環境づくりの広がりにも努められました。

有限会社クスベ産業（有田川町）

環境保全のための技術と商品開発に取り組み、その普及に努められました。

株式会社小森組（串本町）

上浦海岸および串本港の海岸清掃活動において、地域の環境美化に努められました。



●第6 1回全国植樹祭のリレーセレモニーで植樹祭シンボルを受け取りました！

- ・ 5月23日に天皇皇后両陛下ご臨席のもと、第6 1回全国植樹祭が神奈川県で開催されました。次期開催県として仁坂知事が出席、松沢神奈川県知事から”全国植樹祭シンボル”（下写真）を受け取りました。
- ・ 来年の「第6 2回全国植樹祭」は、和歌山県田辺市新庄総合公園を式典会場として開催されます。



- ・ 仁坂知事は次のとおり挨拶を述べました。

「本日、第6 1回全国植樹祭が、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、緑したたる神奈川県において、盛大に開催されましたことを、心からお慶び申し上げます。来年の第6 2回全国植樹祭は、和歌山県において開催いたします。誠に光栄なことと存じます。

和歌山県は、紺碧の黒潮が洗う紀伊半島に位置し、穏やかな気候と豊かな水の恵みが育くんだ美しい紀伊の山々があります。また、自然保護の先覚者でもあった南方熊楠が、研究の場としてその半生を捧げた生物の宝庫でもあります。

平成16年に世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」は、荘厳な雰囲気と底知れぬ魅力に富み、これまで多くの人々を迎えてまいりました。そうした和歌山県に、天皇皇后両陛下をお迎えし、全国植樹祭を開催いたしますことは、県民にとりまして大きな喜びであります。

和歌山県は、日本の山々に樹木の種を播き青山となした神が鎮まるところと、神話に記された「木の国」であります。来年開催する全国植樹祭は、先人が守り育ててきた豊かで多様な森林と木の文化を、より良い姿で未来に引き継いでいくため、次の世代を担う多く子ども達に自分の手で苗木を育ててもらい、県民みんなが緑を慈しむ気持ちを大いに醸成するものになりたいと考えております。

そうした思いを込めて、大会テーマを「緑の神話 今 そして未来へ 紀州木の国から」といたしました。

式典会場は、癒しの地・熊野の玄関口にある田辺市とし、県内各地に地域植樹会場を設けます。山青く、海青く、空青い和歌山へ、全国から多くの皆様にお越し頂きますよう、心からお待ち申し上げてご挨拶いたします。」（全文掲載）



●北山村が平成22年度「情報通信月間」総務大臣表彰を受賞！

・6月1日、東京で開催された「電波の日・情報通信月間」記念中央式典において、「北山村」が情報通信の普及・振興に貢献した個人や団体を表彰する総務大臣表彰を受賞し、表彰を受けました。

・北山村は、インターネットによる「じゃばら」の販売で大きく売上を伸ばしたり、ブログポータルサイト「村ぶろ」の運営で村人口を大きく上回る会員を集めるなど、情報通信技術を活用した地域の活性化に積極的に取り組んでおり、今回の表彰はこの取り組みが高く評価されたものです。

●本県への企業立地件数が76件になりました！

・この度、(株)丸徳水産、ハグルマ(株)の企業進出により、平成19年以来の企業立地件数が76件となりました。

- ① (株)丸徳水産(本社：徳島県)が、和歌山市内に新工場を建設することになりました。西日本から仕入れた魚を和歌山市内の畜養生け簀にストックし、新鮮なままフレー加工、切り身加工など、顧客のニーズに応じて新工場で加工します。
- ② ハグルマ(株)(本社：紀の川市)が生産能力の増強のため、紀の川市桃山町に拡張移転することになりました。ハグルマ株式会社は、ソース、ケチャップなどの製造で知られ、近年は、和歌山産のゆず、だいたい、梅、レモンなどを使用したポン酢、ドレッシングなど地域特性を活かした商品開発で売上げを伸ばしています。



## うめ需給・販売対策プロジェクト ～「生産対策」「消費拡大」「販売対策」に対する取組～

近年、景気の低迷により消費者の購買力低下と低価格志向が進む中、梅干しの消費は高級品を中心に減少傾向にあり、梅干しの在庫増加、海外からの低価格な梅干しとの競合、気象災害の発生など、生産者や加工業者の経営は厳しい状況となっています。

こうした中、県と関係機関が一体となって県内産うめ産業振興に取り組む「うめ需給・販売対策会議」を立ち上げることにしました。この会では、うめの「生産」「消費拡大」「販売」の三つの対策を柱として取り組んでいきます。

### うめ需給・販売対策会議構成組織

○和歌山県

○紀州梅の会：日高、西牟婁管内の市町村・農協・農業者梅干協同組合、梅干生産者

### I 生産対策

1. 「うめ需給・販売対策会議」において、うめ在庫量の把握と対策を推進
2. 新たな加工技術、新商品の開発
3. 改植、樹勢回復対策への補助

### II 消費拡大対策

1. 需要の開拓・食育の推進
  - 1) うめの効能や加工方法についての講習会
  - 2) 小学校での梅干し作り体験
  - 3) 学校給食への配布
2. うめの機能性PR
  - 1) 梅干しを摂取することによる健康増進効果をモニター調査
  - 2) 首都圏でのシンポジウム等開催の検討

### III 販売対策

青梅の収穫期をひかえ、紀州梅の会と和歌山県は、県産梅の徹底プロモーションを集中的に展開します。以下主な取組みをご紹介します。

#### 1. わかやま県産「梅」を徹底PR

知事によるトップセールスを先頭に、産地の皆様と一緒にPR作戦を展開します。

##### 1) トップセールス

知事が紀州梅の会の皆さんと一緒に首都圏でPRしました！



日 時：平成22年6月5日(土)

場 所：東京都中央卸売市場（大田市場）

出席者：仁坂 和歌山県知事

紀州梅の会 真砂会長（田辺市長）

中家副会長（JA紀南組合長）他

内 容：本年産梅のPR

梅料理・青梅展示紹介、梅干し試食、

梅ジュース試飲等

## 2) サッカー日本代表に梅を贈呈（紀州梅の会）



紀州梅の会が4月5日、堺市・サッカーナショナルトレーニングセンターで練習中のサッカー日本代表チームを訪れ、岡田監督・中澤主将に梅干を贈呈しました。

また、5月に日本サッカー協会本部へ梅干100kgを送付しました。

## 3) レッド・リン（講談社「BE・LOVE」に連載中）も県産梅をPR

— 紅い梅と蒼い梅 —



6月15日発売号で青梅を購入できるわいわい市場やわかやま喜集館を紹介  
読者に青梅をプレゼント

コミック（第3巻 7月13日発売）でも梅レシピを紹介

## 4) 梅干を食べようプロジェクトの実施（JA紀南、田辺市役所）

約150名のモニターが2ヶ月間、梅干しを食べ続け、体重・体脂肪率・体調変化に関するアンケート調査を実施。

## 5) 「紀州みなべの南高梅」ロゴ入りTシャツ販売（JAみなべいなみ、みなべ町役場）

地域住民にロゴ入りTシャツを着てもらい、南高梅の「広告塔」になってもらう作戦。

## 2. わかやま県産「梅」の販促を徹底支援

JAみなべいなみ、JA紀南では、全国の量販店で梅レシピを紹介します。

## 3. シンガポールでの冷凍梅等輸出にチャレンジ

伊勢丹スコッツ店での夏フェア、桃とともに、メイン品目として重点PR。

## 4. わかやま喜集館でのPR

「美味しんぼ」フェア（6月5日～6日）や梅料理セミナー（6月24日、25日）を開催。

## 5. ふるさと和歌山わいわい市場でも「青梅特集」

フレッシュな青梅を全国の皆様にネット通販します。

<http://www.wakayamaken.jp/>（PC）

<http://m.wakayamaken.jp/>（モバイル）





和歌山の旬のこだわり情報をお届けします

# 青梅も恋する6月6日



今月は、どうして南高梅が紅色に色づいているのかをご紹介します。

初恋のような甘酸っぱい香りをほのかに漂わせ、ほっぺのようにほんのりと紅色に色づいている南高梅はなんだか“恋”をしているみたいですね。

実はこの現象は、人間に例えると、“日焼け”のような感じだそうです。南高梅に陽の光が当たりその部分が紅色に染まると、抗酸化能やクエン酸、β-カロテンなどの機能成分がアップするそうです。

南高梅はおいしさだけでなく、このような機能成分がたくさん含まれているのですね。さあ、南高梅を食べて、梅雨を元気に乗り切りましょう！

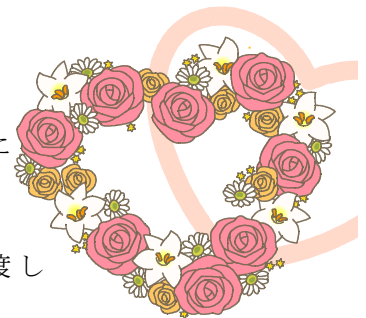
**6月6日は「梅の日」** 16世紀中頃、日照りが続いて人々が困り果てていた時、神のお告げで後奈良天皇が賀茂神社に梅を献上すると、すぐに大雨が降り注いだという故事にちなみ、紀州梅の会が6月6日を「梅の日」と申請し、認められました。

## ジュンブライドは「ハッピー“ウメ”ディング♪」

6月と言えば、ジュンブライド。これは、6月に結婚した花嫁は幸せになれるというヨーロッパからの伝承だそうです。

ブライダルギフトとしても梅干しが大活躍していることはご存じでしたか？結婚披露宴の最後に新郎新婦が招待客にお渡しするお土産にも梅干しが使われているんです！

国産はちみつを使ったとろけるような梅干しは大切な日を迎えた恋するお二人にピッタリですね♪





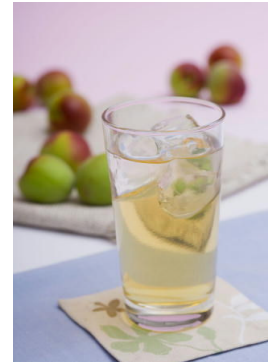
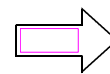
## 食品流通課の新人が梅ジュース作りに初挑戦

「料理が苦手な私でも簡単に梅ジュースを漬けることができたんですよ！」と嬉しそうに語ってくれたのは食品流通課のピカピカの1年生、Tさん。「実は…容器に南高梅1キロと氷砂糖1キロを入れただけなんですけどね」と恥ずかしそうに教えてくれました。

えっ、こんなにもお手軽に梅ジュースが作れるんですねー！冷凍した南高梅を使うと、より早く出来上がるようです。毎朝出勤すると、ロッカーの中に大切に保管した梅ジュースに話しかけていたTさん。一層おいしく出来上がったようですね～♪



1ヶ月後…



みなさんも、青梅を使ってオリジナルの梅ジュースや梅酒などを作ってみてはいかがでしょうか？最近では、ご当地ハイボールが大人気。南高梅の梅酒×ハイボール、梅酒×ブランデー、梅酒×焼酎…などお好みで色々試してみてくださいね。

さらに多くのレシピを知りたい方は下記を要チェック！！

こだわる方への機能性成分をUPさせるプレミアムな梅ジュースや梅酒の作り方

→ <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/gaiyou/011/seika/kakou2.htm>

南高梅を使った料理レシピ→ <http://www.ja-minabeinami.com/m/index.html>

## 新商品 続々登場！

JA みなべいなみから「甘酢一番漬けちゃろか」が新発売。酸味の利いた“梅酢ジュース”を作りたい方はぜひお試しください！

そして、JA 紀南からは、オリジナルキャラクター「うめっぴ」の梅味キャラメルが登場！ご当地の名産品をフレーバーにした、生キャラメルのように「ゆるい(柔らかい)」食感のゆるキャラメルもよろしくね！



うめっぴ®

## ●『わかやま田舎暮らしワークステイ』実施中！！

・県では、農村への移住希望者や農林業に興味を持っている方と、手助けを必要としている地域を結びつける取り組みを行っています。

・『わかやま田舎暮らしワークステイ』では、地域での農作業の手伝いや地域活動により、地域との交流を図りながら田舎での暮らしを体験していただいています。

◎実施市町村【期間】

1. 紀美野町 【7月16日～8月31日（5泊6日以上）】
2. 日高川町 【通年（3泊4日）】
3. 那智勝浦町 【5月～11月（2泊3日以上）】

### お問い合わせ先

Tel:073-441-2930（和歌山県過疎対策課）

### ホームページアドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022200/inakagurashi/workstay/index.html>



～ かえる橋 切目王子神社（切目王子） えんどう・スターチス（印南町）～

### かえる橋

・印南町には全国に類を見ないユニークな橋があります。それは「かえる橋」。「かえる」をテーマとした橋なのです。昭和63年～平成元年にかけて国が推進してきた「ふるさと創世」のための1億円事業。印南町では、人材育成のための「かえる基金」を創設。平成7年度にはかえる橋を建設したのです。

「かえる」と言えば、「柳に跳びつくかえる」で、『努力、忍耐、飛躍』の象徴。また、「かえる」は、「考える」「人をかえる」「町をかえる」「古里へかえる」「栄える」の5つの「かえる」にひっかけて、多くの人々を招き入れ、町の発展に願いをこめて名付けられました。



### 切目王子神社（切目王子）

・熊野への参詣道に約2kmごとにあった「〇〇王子」という小さい神社。参詣や休息に使われたのですが、中でも重要な場所にあった5つの格式の高い王子を「五体王子」といいます。印南町にあった切目王子はその五体王子の1つ。昔、平清盛が熊野詣での途中、この附近で京での平治の乱を知り、社前で勝利を祈り、京へ向かった（「平家物語」）と伝えられています。（切目王子跡は、切目王子神社にあります。）

### えんどう・すいか・ミニトマト・スターチス

・印南町の主要作目のえんどう。うすいえんどう・きぬさやえんどう・オランダえんどうがあります。昭和47年からは、ハウス栽培が始まり品質も良くなり、市場でも好評です。すいかは、大正初期に栽培が始まり、大正末期には、大阪・神戸に出荷されていました。小玉すいかは、西日本で有数の出荷量を誇ります。現在、ミニトマトは、県下最大の産地です。甘くておいしいミニトマトは、市場や消費者から高い評価を得ています。スターチスは、昭和50年に和歌山県に導入。本来は、秋に種を蒔いて、5月～7月に開花するのですが、種子の低温処理や苗を冷蔵庫に入れたりする方法の開発で促成栽培が可能になりました。印南町は、花の産地としての知名度も高まっています。

印南町ホームページ <http://www.town.wakayama-inami.lg.jp/>

## ～編集後記～

6月に入り、梅雨の季節を迎えました。蒸し暑い日が続いていますが、皆様方はいかがお過ごしでしょうか。

「梅雨」の語源には諸説あります。この時期は「梅の実」が熟す頃であるからという説や、「毎」日のように雨が降るので「梅」という漢字が当てられたという説等々です。いずれにしても、梅雨と「ウメ」とは切っても切れない関係です。

余談ですが、私は旧南部町生まれで、小学校から高校まで南部町で育ちました。梅干しづくりの最高品種である「南高梅（なんこううめ）」の名称の由来となった「南部高校（通称：なんこう）」は私の母校です。

和歌山県は今更言うまでもなく、日本一の生産量を誇る「ウメ」の産地です。今月号の県政トピックスでも紹介いたしましたが、「紀州の梅干し」は和歌山県の特産品として全国ブランドとなっています。

近年、景気の低迷や日本人の食生活の変化等により、梅の生産農家や加工業者を取り巻く環境は年々厳しくなっています。

県は今年度、「うめ需給・販売対策プロジェクト」を新たに立ちあげて、この課題に一生懸命取り組んでいます。和歌山の「ウメ」のブランド力を維持しつつ、消費を拡大していくためには、昔ながらの梅干し加工にとどまらず、学術的な効能研究や加工技術等の向上、新たな販路開拓に果敢にチャレンジしていくことが必要であると思います。

梅雨が明けると、いよいよ暑い夏本番です。皆様方にはお体に気をつけてお過ごし下さい。

知事室秘書課長 藤川 崇

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

（下記のFAX（様式自由）、E-Mail等をお願いします。）

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

\*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2010年（平成22年）6月 NO.27

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022